



中部の

エネルギーを 築いた

人々

でんきの科学館開館40周年
～中部地方初の発電所から
電気文化会館の建設(その2)～

私たちの暮らしや社会生活を送るうえで、欠かすことのできない“電気”。電気は「光」「動力」「熱」さらにコンピューター時代の「情報」として利用されている。このエネルギーをより深くご理解いただくため、名古屋市広小路にあった中部地方初の発電所跡に「でんきの科学館」が1986(昭和61)年に開館してから40周年を迎える。

今回、前回掲載に引き続き、その2として歴史の変遷過程時代の東邦電力㈱電気百貨店、中部電力㈱電気文化会館時代のあらましを掲載する。



松永安左工門

1875(明治8)年～1971(昭和46)年
1928(昭和3)年から1940(昭和15)年
まで東邦電力(株)取締役社長に就任
(出典:東邦電力株式会社史)

I 東邦電力(株)電気百貨店

第1次世界大戦をきっかけに、官民一体となった近代化、工業化が進むと、電灯の普及に加えて工場の電化が進み電力需要が急速に拡大した。電灯の普及状況を見てみると大正時代に入って急速な伸びを見せ、1925(大正14)年には81%に達し、1935(昭和10)年には90%を越えている、ちなみにドイツの普及率は85%、アメリカは68%である。これらの電化推進の担い手となったのが5大電力(=東京電灯、東邦電力、大同電力、日本電力、宇治川電気)である。

この時代、家庭電化の分野でも電灯の他に電熱、電動力を利用した電気扇風機、電気ストーブなど国産の電化製品が登場した。また、家庭における電気の利用を促進し、生活改善を図ることを目的に電気事業者、電機製造業者、大学研究者などが発起人となり家庭電気普及会が1924(大正13)年に設立、初代会長に後藤新平が就任した。

1922(大正11)年、東邦電力が設立され本社が東京丸の内に移転後、旧本社跡社屋に1929(昭和4)年電気普及館を新設、1932(昭和7)年に改組されて「電気百貨店」となった。

電気百貨店は照明、電熱、電力全てにわた



名古屋電灯本社建屋を改装した電気百貨店
(AI(Gemini)による復元イメージ写真)

- 4 台所用品：トースター、電気冷蔵庫、電気釜、電気オーブン、オーブン、ミキサー、ジューサー、電気フライパン、ロースター、電子レンジなど、
- 5 ラジオ・テレビ・映画、その他、身近な製品としてネオンサイン、街灯、信号機などがあげられる。

なお、大正ロマン、昭和レトロ期の主な家庭電化製品の歴史発議の通りである。

西暦	和暦	家庭電化製品（#印はアメリカ製品）
		{アメリカの電気事業}
1878	明治11	# エジソン電灯会社をニューヨークに設立、白熱電球の研究開発を開始
1882	明治15	# エジソン、ニューヨークマンハッタンに火力発電所を建設(出力:540kW)
		{日本の電気事業}
1883	明治16	東京電灯開業(技師長：藤岡市助=日本のエジソンといわれる)
1889	明治22	大阪電灯開業(技師長：岩垂邦彦=エジソン研究所に勤め、NECの前身を創立)
1889	明治22	名古屋電灯開業(技師長：丹羽正道=エジソンに会って指導を受ける)
1890	明治23	炭素電球国産化、電球フィラメントにタングステンを採用：1909(明治42)
1893	明治26	# WH社、初めての扇風機発売
1894	明治27	芝浦製作所、「直流エジソン型」扇風機製作
1910	明治43	# アメリカで電気アイロン実用化
1915	大正4	芝浦製作所、電気アイロン
1918	大正7	# 米国ケルビネータ社、家庭用冷蔵庫第1号発売
1920	大正9	米国で世界初の放送局開局：日本でラジオ放送開始・1925(大正14)年
1924	大正13	大阪で電気釜発売、電気製堀こたつ・置きこたつ発売
1930	昭和5	芝浦製作所、電気冷蔵庫、電気洗濯機を発売
1933	昭和8	東芝、純国産家庭用冷蔵庫発売
		{家庭電気文化会} = 電気知識・電気機器の普及、啓発
1922	大正11	家庭電化「電気の家」：山本忠興早大教授・博士・電気学会・照明学会会長 湯沸し器、トースター器、電気ミシン器、電気アイロン器、オーブナー器、 電気冷蔵庫、電気洗濯機、井戸ポンプ
1924	大正13	家庭電気普及会発足(会長：後藤新平)・1949(昭和24)家庭電気文化会に改称
1932	昭和7	電気百貨店開設：東邦電力名古屋支店
1934	昭和9	三菱電気の家建設：三菱電気名古屋製作所
		{三種の神器} = テレビ、電気冷蔵庫、電気洗濯機：1950年代
1926	大正15	テレビのルーツ、高柳健次郎がブラウン管上に「イ」の字の表示に成功
1953	昭和28	テレビ本放送開始、国産初のTVをシャープが発売
		{新三種の神器 = 3C} = カラーテレビ、クーラー、自動車：1960年代
1960	昭和35	カラーテレビ本放送開始、東芝が国産カラーテレビ発売：1957(昭和32)年
1952	昭和27	ルームクーラ量産化始まる、1965(昭和40)年、ルームエアコンに改称
		{新3C = 電子レンジ、別荘、セントラルヒーティング：1960年代後半}
1965	昭和40	家庭用電子レンジ発売、1962(昭和37)年、業務用電子レンジ発売

【参考2】 オール電化住宅「三菱電気の家」

1934(昭和9)年、アメリカのウエスチングハウス研究所長シー・イー・スキナー博士が電気学会の招聘により来日、名古屋で「A HOME of TOMORROW」と題して講演を行った。これを機に名古屋市東区矢田の三菱電気名古屋製作所内に「電気の家」建物：2階建て(建坪：111坪、建築費：15,000円、設備配線費を含め50,000円)が建設された。当時マスコミでも大きく取り上げられ、米紙「エレクトリックジャーナル」で世界に二つの電化の家(アメリカのWH社と三菱電気の家)と紹介され、名

古屋の見学コースの一つに数えられるほど大きな話題を呼んだが戦火で焼失した。



II 電気文化会館の建設

日本経済の高度成長期時代から企業の社会的責任、また文化・芸術活動に貢献するメセナ活動が推進された。これらの一環として、1986(昭和61)年7月、中部地方初の電気事業発祥の地に地域文化・芸術の振興に貢献する電気文化会館が建設された。

同館は電気科学、エネルギー、電気事業に対する理解を得ることなどを目的に、中部地方初の企業博物館「でんきの科学館」として1階から4階にオープン。企業博物館の先駆けとなり、さらに小中学生の社会見学先・楽しく科学とふれあう広場となっている。さらに地下2階に音楽専用のザ・コンサートホール(定員:395名)、5階に多目的に利用できるイベントホール(定員:300名)、東・西ギャラリーがあり親しまれている。

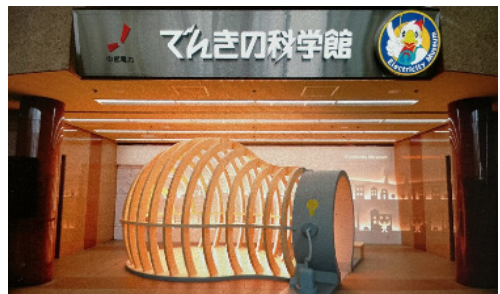
中部電力はでんきの科学館開館40周年を機に、全館をリニューアル・5月30日にオープンした。

筆者は6月14日(日)サイエンスツアーに参加したのでその概要を報告する。

(1) 1階：エントランス

シンボリックな巨大電球の光が、奥の壁

面に描かれている社会や街を照らし、エネルギーに満ちあふれる様子を表現。



(2-1) 2階東側：でんきの発見

でんきの正体は？どのように解明されたのか？を解き明かし、エジソンをはじめとする偉大な科学者たちを紹介。

(2-2) 2階中央・西側：ウエルカムゲート・サイエンスプラザ

科学の世界をご案内するとともに地球の様々なエネルギーや資源について学ぶ。

(3-1) 3階東側：でんきの旅

電気はどこで作られ、どのように家庭や街に運ばれてくるのか電気の旅を紹介。

(3-2) 3階西側：環境とエネルギー

地球環境・エネルギー資源・発電の3つ

のゾーンに分けてエネルギーと地球環境の問題について紹介。

(4-1) 4階東側：みらいとでんき

未来ではどうやって電気をつくって、ためて、届けて、使うのか？その答えとなる新技術を紹介。

(4-2) 4階西側：あそびとまなびの森・

電気資料室

森の役割や木の特徴、生き物の不思議などから自然との向き合い方を学ぶ。また中部地方の電気事業に関する貴重な資料を展示。

サイエンスツアーは以上のようなコースをでんきの科学館スタッフが様々な角度から分かり易く説明、案内してくれる。

さらに楽しく体験するコースとして

A-1：おもしろ実験（参加体験型実験：2階サイエンスプラザ）

発電の実験、静電気の実験、電池の実験など様々な実験に挑戦、体験することができる。

A-2：おもしろ工作（参加型の実験ショー！：2階サイエンスプラザ）

誰でも簡単に作れる工作を日曜日に開催。

B：オームシアター・オームアイランド：3階オームシアター

クイズの神殿、スペースグランプリなど6つの上映プログラムの中からゲーム・クイズに挑戦。72名が同時参加でき、350インチの大画面で迫力のある音と映像を楽しむことができる。

このほか小中学生を対象に理科の実験学習

として各種教室（電気実験教室・環境エネルギー教室・放射線実験教室）などを開催している。

でんきの科学館ご案内

所在地：〒460-0008

名古屋市中区栄2丁目2番2号
地下鉄「伏見駅」4番出口から
東へ徒歩2分

電話：052-201-1026

開館時間：9:30~17:00

休館日：毎週月曜日、祝日、または振替休日場合は翌日、第3金曜日（8月は除く）、年末年始

入館料：無料



でんきの科学館4階：福沢桃介大理石像

1916(大正5)年に来日したイタリア人彫刻家ペシー(Ottilio Pecci)が制作した大理石胸像。鵜沼の貞照寺で保管され、矢作製鉄(本社ロビー設置)を経て中部電力でんきの科学館4Fでんき資料室で展示。

(寺沢 安正)